

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ] vol.272

# 10

October 2025

特集

02

内田光子 ピアノ・リサイタル  
ベートーヴェンの精神の終着点へ

04 「京城の名手・名歌手たち」の36年  
06 INFORMATION

©Decca Justin Pumfrey

水戸芸術館  
ART TOWER MITO

# ベートーヴェンの精神の終着点へ ——内田光子が、水戸の舞台に上がる

文：中村 晃



©Decca Justin Pumfrey

西洋芸術音楽の演奏家として、小澤征爾・前水戸芸術館館長と並んで、世界の頂点に登り詰めた日本人が内田光子さんです。彼女は自身の演奏の完成度を最優先するために、「1年に50回以上は絶対に弾かない」（『音楽の友』2004年1月号）と、コンサートの回数と会場を制限し、今日でもその姿勢は貫かれています。それだけに、世界中のホールが内田さんをお招きしたいと熱望するのですが、その実現はとても困難なことです。しかし、たいへん光栄なことに内田光子さんは、水戸芸術館では継続的にリサイタルを行ってくださっています。

それが実現できているのは、吉田秀和・水戸芸術館初代館長と小澤征爾・前館長と内田光子さんとの深い縁があるからこそです。

内田光子さんと吉田秀和さんとの交流は、内田さんの幼年時代にまで遡ります。吉田さんが創立者の一人として関わっていた桐朋学園「子供のための音楽教室」の生徒の中に内田さんがいました。外交官であったお父様がウィーンに赴任することになり、当時12歳だった内田さんを連れていきたいと考え、その是非を吉田さんに相談したそうです。ピアノの先生はまだ早いという見解だったそうですが、

吉田さんは「もちろんいいに決まっている」とお話しをされたそうです（ONTOMO MOOK『吉田秀和—音楽を心の友と』音楽之友社刊より）。そして、内田さんはウィーンに渡り、音楽の研鑽を積み、その後ロンドンに活動の拠点を移し、国際的な評価を確立していきました。以来、吉田さんは、内田さんの活動に注目し続け、新譜がリリースされる度に、批評を書きました。

一方、内田光子さんと小澤征爾さんは、最初にご紹介した通り、同じ時代に日本人演奏家として、西洋芸術音楽の頂点に到達した同志です。先



に国際的な地歩を築いたのは、内田さんより13歳年上の小澤さんでした。そして1984年、小澤さんが指揮をするベルリン・フィルハーモニー管弦楽団との演奏会が、内田さんの国際舞台への躍進の大きな足がかりとなりました。ちなみにこの演奏会に内田さんは、メシアンの〈異国の鳥たち〉のソリストとして出演しました。以来、40年近くに亘って2人は親交を温めてきました。2人の最後の共演は、2017年のセイジ・オザワ 松本フェスティバルでのサイトウ・キネン・オーケストラとのベートーヴェン〈ピアノ協奏曲 第3番〉の演奏でした。内田さんは水戸芸術館にリサイタルでいらっしやると、いつも小澤さんの体調を気にかけ、その近況をお尋ねになっていました。

今回のリサイタルに内田光子さんが選んだプログラムは、ベートーヴェンの最後の3つのピアノ・ソナタです。ベートーヴェンにとってピアノ・ソナタは、創作の初期から晩年まで絶えず追求してきた重要な曲種で、ピアニスト・指揮者のハンス・フォン・ビューローは、この作品群を「新約聖書」と讃えました。そして、1820年から22年にかけて作曲された最後の3つの作品は、その奇蹟のようなピアノ・ソナタ創作の道程の最後に到達した、比類なき境地にある作品です。

〈ピアノ・ソナタ 第30番〉作品109は、ベートーヴェン以降の作曲家たちへの贈物とも言える作品です。1820年に作曲されました。作曲家・ピアニストの野平一郎氏は、「作品109は、これ以上不可能なほど凝縮された形式を持ち、後年さまざまな作品の雛形となった。それは20世紀になっても続き、例えばかの有名なウェーベルンの〈変奏曲〉作品27は、この曲なしにその存在は考えられない」と語っています(CD「野平一郎

ベートーヴェン作品集12」ナミ・レコードWWCC7465 ライナーノーツより)。この作品の核心となっているのが変奏形式で書かれた第3楽章ですが、ベートーヴェンが「歌うように、心の底からの感動をもって」と指示している美しい主題とその変奏が、心を打ちます。

〈ピアノ・ソナタ 第31番〉作品110は、1821年12月25日に完成したと自筆譜に書き込まれていますが、翌年さらに終楽章に手が増えられたと考えられています。第1楽章は、この上なく優美な歌謡的な旋律がソナタ形式と結びつけられています。そして、第3楽章は、アダージョの序奏がついたフーガとして書かれており、そのフーガは、やがて息も絶え絶えとなり完全な終焉を迎えようとしませんが、そこに一筋の光が射し込み、生命が蘇ります。絶望の淵から復活を遂げる、救済のドラマが宿っています。

〈ピアノ・ソナタ 第32番〉作品111は、ベートーヴェンが完成させた最後のピアノ・ソナタで、第31番とほぼ並行して作曲されました。序奏付きのソナタ形式で書かれた第1楽章、主題と5つの変奏曲による第2楽章という、2部構成となっています。この2つは鋭く対置されており、ベートーヴェンの不屈の闘争を表すような嵐の如き激しさと緊張感をもった第1楽章に続き、第2楽章ではリズムを順次細分化する変奏が展開され、これ以上の細分化が不可能となった時に、突如として現実世界と超越的世界が同時に顕現したかの如く変奏は二重となり、あたかも精神が天空へと解き放たれて行くかのように感じられます。



©Decca Justin Pumfrey

ベートーヴェンの精神の終着点を求めて、円熟を極めた内田光子さんが、水戸芸術館コンサートホール ATMのステージに上がります。

#### ■公演情報

#### 現代ピアノの巨匠たち〈リサイタル編〉 内田光子ピアノ・リサイタル

2025.10.25(土) 16:30開場 17:00開演  
全席指定 A席¥13,000、B席¥11,000

**チケット完売**

#### ●曲目

ベートーヴェン：  
ピアノ・ソナタ第30番 木長調 作品109  
ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 作品110  
ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 作品111

# 「茨城の名手・名歌手たち」の36年

文：篠田大基



第32回演奏会(2024年) カーテンコール

「茨城の名手・名歌手たち」は、茨城にゆかりのある優れた演奏家を発掘し、紹介していくことを目的に、水戸芸術館が毎年開催している恒例のオーディション企画です。水戸芸術館が開館した1990年に始まり、東日本大震災やコロナ禍で中止になった年もありましたが、今年で第33回を迎えました。今回は、鍵盤楽器、弦楽器、邦楽器(以上ソロ)、邦楽アンサンブル(2～5人)を対象に、6月28日(土)に出演者オーディションを行い、8組の演奏家が選考を通過しました。その8組によるガラ・コンサートを11月9日(日)に開催します。コンサートの司会は、オーディション審査委員の一人で元オーボエ奏者、指揮者の宮本文昭さん(水戸室内管弦楽団名誉楽団員)が務めます。

「茨城の名手・名歌手たち」は1990年の第1回からの36年間で、のべ390組の演奏家たちを紹介してきました。今では茨城の演奏家の登龍門としてすっかり定着した「茨城の名手・名歌手たち」。その第1回から現在

までの歩みを、ここで振り返ってみましょう。

## 第1回オーディションと演奏会

「茨城の名手・名歌手たち」の記念すべき第1回演奏会は、水戸芸術館の開館記念コンサートの一つとして、1990年5月1日(器楽)と14日(声楽)の2回に分けて開催されました。これに先立つ出演者オーディションは、その年の1月13日と14日の2日間、そのとき水戸芸術館はまだ建設中でしたから、水戸市内の常陽藝文センターを会場にしての開催でした。第1回オーディションへの応募者は、なんと器楽66人、声楽57人の計123人にのぼり、これは過去に県内で開催された演奏家オーディションでは見られなかったほどの大人数だったといえます(このときの審査委員の一人、臼井英男さんが第1回演奏会のプログラムに寄せた文章より)。それはまさに、当時茨城で音楽に携わってきた人たちの熱意と、新たに作られるコンサートホールへの期待の反映でした。

オーディションの審査委員長を務めた声楽家で音楽評論家の故・畑中良輔さん(元当館音楽部門芸術総監督)も、「予想を遥かに超える多数の応募があり、私達審査員をおどろかせると同時に、茨城の音楽人のパワーを眼のあたりにして、頼もしく思った」と、第1回演奏会のプログラムに書き記しています。このときのオーディションを通過して演奏会への出演を決めたのは、声楽10人、器楽11人の計21人でした。この応募者数と演奏会出演者数は、ともに初回にして現在に至るまで最多の人数として記録されています。

## それからの歩み

「茨城の名手・名歌手たち」はその後も発展を重ね、当初は声楽、ピアノ、管楽器、弦楽器の4部門、ソロのみでの募集でしたが、第4回(1993年)からはアンサンブル部門も加えられました。現在も2～5人編成による器楽アンサンブル部門と邦楽アンサンブル部門を隔年で交互に募集してい



第4回演奏会(1993年)での初めてのアンサンブル部門合格団体「茨城トロンボーン・カルテット」

ます。第1回以来しばらくは、毎年1～2月にオーディション、4～5月に演奏会を開催していましたが、第12回(2001年)からは春(4～6月)にオーディション、秋(9～11月)に演奏会というスケジュールになり、第13回(2002年)からは募集部門を1年ごとに切り替える制度にして現在に至ります。

東日本大震災が発生した2011年は、水戸芸術館の被災に伴う閉館で「茨城の名手・名歌手たち」が初めて募集を中止した年でした。オーディションと演奏会が開催できなかった代わりに、2011年と12年には過去の出演者によるギャラリー・コンサートやエントランスホールでのプロムナード・コンサートを開催してご好評をいただきました。これらの演奏会はその後の「プロムナード・コンサートEXTRA」や、常陽藝文センターと佐川文庫のご協力によって開催している「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」のような、「茨城の名手・名歌手たち」出身者を紹介する演奏会の原型となっています。



「茨城の名手・名歌手たち」出身者によるプロムナード・コンサート(2011年12月) 出演:清水知子(ソプラノ)、天城協子(ピアノ) 写真典のパイプオルガンは修復工事中

## 豪華な審査委員陣と多彩な出演者たち

オーディションの審査は、畑中良輔さんをはじめ、間宮芳生さん(作曲家)、若杉弘さん(指揮者)、池辺晋一郎さん(作曲家)という水戸芸術館音楽部門の企画運営委員を務めた方々を中心に、各分野で日本を代表する一流の音楽家たちをお招きしています。



長くオーディション審査委員長を務めた畑中良輔さん 第11回演奏会(2000年)より

今年の第33回オーディションは、池辺晋一郎さん、宮本文昭さん、堀伝さん(元ヴァイオリニスト・水戸室内管弦楽団楽団長)、小菅優さん(ピアニスト・新ダヴィッド同盟メンバー)、福永千恵子さん(箏奏者)の5名が審査を務めました。

このような審査委員による審査を通過した「茨城の名手・名歌手たち」出身者のなかには、第1回奏楽堂歌曲コンクール第1位のソプラノ歌手の小泉恵子さん(第1回(1990年)出演)や第66回日本音楽コンクール第2位(1位なし)のバリトン歌手の清水良一さん(第7回(1996年)出演)、第6回アドルフ・サックス国際コンクール第2位のサクソフォン奏者の上野耕平さん(第24回(2014年)出演)など、日本のクラシック音楽シーンを支え、水戸芸術館の演奏会にもたびたびご出演くださっている方もいらっしゃいます。また、地域で教育活動に従事されている方、将来有望な学生や若手

演奏家も数多くいます。オーディションに年齢制限がないのもこの企画の大きな特色で、これまでの出演者の最年少は9歳(仲村真貴子さん(ピアノ)・第4回(1993年)出演)、最年長は83歳(小林弘子さん(ソプラノ)第28回(2018年)出演)でした。このような幅広い年齢層と多彩な楽器や声種が、演奏会を盛り上げ、充実した内容にする素地となっています。

11月9日(日)の第33回演奏会もヴァラエティ豊かな構成になりました。ヴィオラ、オルガン、邦楽アンサンブルでの出演者は「茨城の名手・名歌手たち」では久しぶりとなります。ピアノやヴァイオリンにもぜひご注目いただきたい実力のある演奏家が揃いました。沢山の方にご覧いただけましたら幸いです。



司会を務める宮本文昭さん 第32回演奏会(2024年)より

### ■公演情報

### 茨城の名手・名歌手たち 第33回

2025.11.9(日) 15:30開場 16:00開演  
全席自由 ¥1,500

#### ●司会

宮本文昭(オーディション審査委員)

#### ●出演(出演順)

榎田有玖(ピアノ)、和田涼音(ヴァイオリン)、園部帆乃香(ピアノ)、寺内弘志(オルガン)、邦楽アンサンブル彩音(箏・三絃 五重奏)、辰巳健一(ピアノ)、古橋明香里(ピアノ)、石坂淑恵(ヴィオラ)



# INFORMATION

※以下は9月1日現在の情報です。公演等に関する最新情報は当館ウェブサイトにてご確認ください。

## チケット・インフォメーション

《9.27(土)追加発売》

■古橋明香里 ピアノ名曲コンサート  
2.1(日) 14:00

《10.25(土)発売予定》

■ちょっとお昼にクラシック

辻本玲と仲間たち〜チェロ×クラリネット×ピアノで愉しむ室内楽〜  
2.6(金) 13:30

■伝統芸能のススメ【聲明】

四箇法要 附 宮内康乃作曲《海霧讃歎》《海霧廻向》  
3.14(土) 時間未定

## 10月の主な音楽イベント

### コンサートホールATM

◆内田光子 ピアノ・リサイタル

10.25(土) 17:00 予定枚数終了

料金【全席指定】A席¥13,000/B席¥11,000

### エントランスホール

◆パイプオルガン・プロムナード・コンサート

(入場無料／事前予約不要)

□10.4(土) 11:00～11:30 山司恵莉子

□10.12(日) 12:00～12:30/13:30～14:00 木下天音

水戸室内管弦楽団(MCO) メンバーが講師を務める2種類のレッスンにつきまして受講団体を募集します。詳しくは、当館ウェブサイトをご覧ください。

### ◆管打楽器アンサンブル・レッスンとコンサート◆

事前レッスン(非公開):2025年11月22・23・24日(土・日・月祝)から計5時間程度

コンサートリハーサル:2026年1月11日(日) コンサート本番:1月12日(月・祝)

対象:高校生(中高一貫校の場合は中学生を含む)以上の木管楽器、金管楽器または打楽器の三重奏〜八重奏程度のグループ(プロ/アマ不問)

定員:4組程度

### ◆オーケストラ・吹奏楽団向け公開レッスン◆

事前レッスン(非公開):2026年2月14日(土)

リハーサルと公開レッスン:2月15日(日)

対象:茨城県西地域で活動する職場・一般、大学、高等学校(中高一貫校を含む)の吹奏楽団またはオーケストラ

定員:1組程度

申し込み締切:いずれも10月6日(月)必着

お問い合わせ:水戸芸術館音楽部門【MCOセミナー】係

Lucky FM 茨城放送

「水戸芸術館 presents みんなのクラシック」

毎週日曜 7:30～8:00

パーソナリティ:石井哲也アナウンサー

出演:音楽部門学芸員(月替わり)

学芸員がおおすすめの曲をご紹介します、クラシックの魅力をお届けする番組です。

▼Lucky FM ウェブサイト

<https://lucky-ibaraki.com/>

▼radiko(ラジコ)でもお聴

きいただけます

<https://radiko.jp/>



好評  
放送中!

## 演劇・美術のイチオシ企画!

### ACM劇場

◆ACMファミリーシアター

「大どろぼうホッツェンブロッツ」

11.23(日・祝)、24日(月・振)、29日(土)、30日(日) 11:00/15:00

原作『大どろぼうホッツェンブロッツ』(偕成社刊)

作:オトフリート・フロイスラー

訳:中村浩三 脚本:高橋知伽江

作曲:片野真吾 振付:高城信江

演出:大杉 良

出演:水野直、大内真智、草薨智文、塩谷亮、小林祐介、ヤマグチリオ

料金【全席指定】大人¥3,000/こども¥1,500

◎お得な親子チケットあり。詳しくは当館ウェブサイト(ACM劇場)をご覧ください。



### 現代美術ギャラリー

◆磯崎新:群島としての建築

11.1(土)～2025.1.25(日)

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌火曜日)、年末年始

【開場時間】10:00～18:00(入場

は17:30まで)

【入場料】一般¥900/団体(20名以上)¥700

高校生以下/70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料



磯崎 新(水戸芸術館)1988年  
シルクスクリーン・プリント

2025年9月9日発行(第272号)

編集:水戸芸術館音楽部門 | 中村 晃、関根哲也、篠田大基、角増 柊、根本彩生、高木春佳、渡辺有美

発行:(公財)水戸市芸術振興財団 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8118(音楽部門)

Tel.029-231-8000(チケット予約センター 9:30～18:00・月曜休館) <https://www.arttowermito.or.jp/>

デザイン:K5 ART DESIGN OFFICE. 印刷製本:山三印刷株式会社



### ■編集後記

今年のお盆は久しぶりに実家へ帰省。とはいえ、埼玉のベッドタウンには名所も名物も特にない。とりえず、埼玉県民の魂の味「山田うどん」に赴き、うどん・かき揚げ丼・パンチ(ピリ辛もつ煮込み)のセットを胃袋にかき込むと、得も言われぬ幸福感に包まれた。埼玉の血は恐ろしい。(角)

10・11・12月と「現代ピアノの巨匠たち」シリーズのレジェンド・クラスのピアニストの演奏会が続きます。Lucky FM 茨城放送「水戸芸術館 presents みんなのクラシック」でも、10月は「現代ピアノの巨匠たち」にタイアップした内容でお送りします。お楽しみに。(篠)

往年の名盤「武満徹の音楽」LP4枚組を中古で入手。吉田秀和初代館長が武満の音楽を語り、秋山邦晴氏が曲目解説を書き、瀬口修造氏がイラストを描くという充実極まるブックレットを広げながら、武満の音楽の凄まじい熱量に圧倒される初秋の夜でした。(て)

毎年、衣替えの季節になると、家には去年買った服がたくさんあるのに、ネットで新しい服を探しても、服を捨てられない性格で、いつか着るだろう...と思って捨てられないんです。新しい服を買ったら絶対着ないって分かっているのに...。(笑)(春)

コロナ禍の2021年秋、内田光子さんは急遽、当館で演奏会を行ってくださった。メイン曲は、ベートーヴェン最後のピアノ変奏曲(ディアベリ変奏曲)。内田さんは、最後の部分には「絶対的な肯定の世界がある」と話された。この大作へ連なる最後の3つのソナタが今回取り上げられる。(中)

当館のカスケード(噴水)は、以前のように、今年から憩いの広場として復活しました。ある朝、ふと目にしたのは、カモの親子が仲良く泳ぐ姿。思わず写真を撮ってしまうほどの風情があり、「平和な朝だな」と心とむひとときでした。(根)

爪を切ったり、髪の毛を切ったり、その瞬間まで私の一部だったものがなくなると、新しい自分になったような気がします。アンパンマンが新しい顔になるような、そんな感覚です。アンパンマンといえば、朝ドラ「あんぱん」がそろそろ最終回を迎えますね。ロスになりそうだなあ。(辺)